

■ 横井 篤文 (よこい あつふみ) さん [国立大学法人岡山大学 上席副学長]



- \* マルチポテンシャルライト：好きなことを次々と仕事にしていく  
パラレルキャリア：本業を守りながら第二のキャリアを築く  
【注】ご自身の生き方を象徴する言葉として紹介されたもの。
- \* 未来は予測するものではなく、創っていくもの。地図はないが、コンパスはある。
- \* 「今あるもの」と「ありたい姿」をつなぐためのコンパスが SDGs。
- \* 日本が「持続可能な開発のための教育の 10 年 (D-ESD)」を国連に提案。SDGs は黒船ではない。

- \* 「持続可能な開発 × 平和と安全保障」。表裏一体のものとして、身近な課題から社会・経済・環境を統合的にとらえる「システムシンキング」が大切。
- \* 人類と地球の健康をどのように保障するのか。世界経済はグレート・リセット（再起動）が必要。
- \* 環境・社会・経済には順番があり、成長には限界がある。それを理解するモデルが「SDGs ウェディングケーキ」。ケーキは、上から「経済圏」「社会圏」「環境（生物）圏」の 3 層からなる。「社会」と「経済」は土台となる「環境」無くしては成り立たない。頂点（軸）に目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」が設定されている。

【注】SDGs の考え方を理解し、目標を達成するために重要な部分。次ページにイメージ図を掲載。

- \* 「社会貢献 × 自己成長」。Z 世代は、2 つの壁を越えて同時に追うことができる。次世代リーダー・グローバルサミット「One Young World」で高校生の活動例もある。

【注】Z 世代：日本では 1990 年後半頃から 2012 年頃に生まれた世代。デジタルネイティブであり、SNS ネイティブ、さらにスマホネイティブでもあるといった特徴を持つ。

- \* 認識＝行動ではない。必要なものは「ハードウェア」でも「ソフトウェア」でもなく「ハートウェア」。個人・組織・社会・地球を連鎖させた「エンゲージメント（貢献しようとする志）」が必要。
- \* 資本主義から「志」本主義へ。
- \* 夢を抱こう。夢は「志」のエネルギー。行動には仲間が必要。「志」を持てば仲間ができる。夢と行動がキーワード。
- \* そもそも、教育は「自分にコネク」するためのもの。まず自分とつながれば、友達、コミュニティ、町、世界へとつながる。



【写真】講演で実際に用いられたスライドの中の 1 枚

■ 久保 駿貴 (くぼ しゅんき) さん [本校 42 回生 株式会社 ABABA 代表取締役 CEO]

- \* 「SDGs × innovation」の発想。市場規模 3,500 兆円のビジネスチャンス。
- \* SDGs を義務ととらえると続かない。20~30 年後を見据えた施策であり、長期的なビジネス。
- 【注】講演では、ビジネスの具体例として、Apple やファーストリテイリング (ユニクロ) の取組に加え、生徒もすぐに協力・貢献ができる身近な実践例も紹介。



- \* 「就活の最終面接が不調で悩んでいる友人の力になりたい」がきっかけで、ノーコードのアプリで就活支援サービスを開発し、創業。

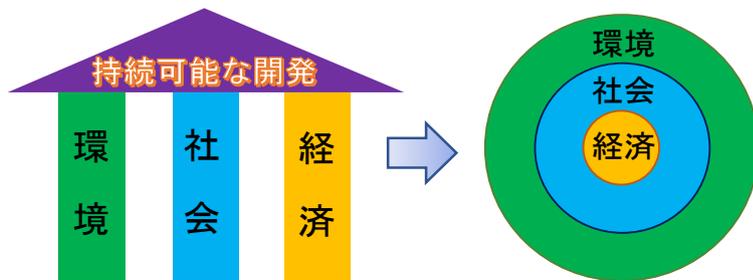
【注】ノーコード：Web サービスやアプリ開発に必須だったプログラミング言語によるソースコードをパーツとしてビジュアル化。欲しいパーツを置きたい箇所に配置していくことで、アプリなどを開発することができるサービス。「誰でも簡単に Web サービス開発ができる」として注目を集める。

- \* SDGs の理念である「誰一人取り残さない」を就職活動の現場で実現へ。
- \* アイデアはいろんなところに眠っている。常識を疑うことで新しいアイデアが生まれる。

お二人の講演のおかげで、大半の生徒が自分事として SDGs を考え、「自分と SDGs をコネクトさせる」ことができました。視野を広げた生徒たちが、今後どのような活動や進路選択をすることになるのか、大きな楽しみができた講演会でした。

★横井先生が講演中「最も重要」と言われたスライド

【注】実際に用いられたスライドではありません。講演内容をもとに、教頭が再現した“イメージ”です。



2002 年、持続可能な開発に関する世界首脳会議  
 > 持続可能な開発を構成する「3 本柱」としての環境・社会・経済は並列の存在。

2015 年、SDGs が採択された国連持続可能な開発サミット  
 > 3 つは並列ではなく、社会は経済の、環境は社会の前提条件だと定義された。



SDGs ウェディングケーキモデル

SDGs の目標 17 「パートナーシップで目標を達成しよう」をケーキの頂点として、その下にある 3 つの階層「経済圏」「社会圏」「生物圏」によって構成されている。3 つの階層の並び方には意味があり、「経済」の発展は、生活や教育などの社会条件によって成立し、「社会」は最下層の「生物圏」、つまり人々が生活するために必要な自然の環境によって支えられていることを表している